

With/After コロナのニューノーマル

オンラインで海外の学校と繋がる

≫神奈川県立鎌倉高等学校×「教室から世界一周！プロジェクト」



フランスの高校生と交流

神奈川県立鎌倉高等学校（神奈川県鎌倉市）では、2020年7月より「教室から世界一周！」プロジェクト（代表：堂原有美さん）と協働し、英語研究会※の活動として海外の高校生たちをオンラインで繋ぎ、お互いの生活や文化について生徒同士が話し合い、友好を深める交流事業を開始しています。 ※英語をテーマにした生徒の同好会

「受験のためだけの英語なんでもったいない！英語の先にはこんなにもワクワクする世界が広がっているんだから！」日々の授業の中で、そんなことを生徒に感じてほしいと思っています。自分の頭の世界地図を広げ、世界をもっと面白い。そんなきっかけを生徒たちに与えたいと思って始めたのが、このプロジェクトです。」（英語科教諭・英語研究会顧問 堀川晋太郎先生）

「教室から世界一周！」プロジェクト <http://wtoc-edu.com/> は、2020年4月に立ち上がった日本と世界の教室をオンラインで繋ぐ授業を提供するプロジェクト。これまでに世界30以上の国々の教育機関と連携し、日本の小学校、中学校、高校をメインに交流を展開しています。参加する生徒たちが海外の同世代との対話を通して世界の現状を知り、探究心を育み、具体的なソーシャルアクションに繋がることを目指しており、コロナ禍における国際交流推進の新しい形としても期待がかかる。

「いつもの教室からフランスへ、イスラエルへ、 メキシコへ！」

≫神奈川県立鎌倉高等学校×「教室から世界一周！プロジェクト」

【プログラムの概要】



開催場所	Zoomによるオンライン、生徒は教室あるいは自宅からPC接続
対象	英語研究会会員、2021年度は高2全員
時間	約1時間
概要	Zoomを使って海外の学校をオンラインで繋ぎ、共通テーマについて小グループで30分程度の話し合い。全体会で各グループの代表がどんな内容の話し合いだったかを発表。公用語は日本語・英語。
企画運営	「教室から世界一周」プロジェクト(代表:堂原有美)
	開催時の全体進行は担当教員、Zoom操作等のロジ回りを協働する団体スタッフが担当
費用	研究会会費または教材費として、若干の費用負担を生徒から徴収予定

イスラエルの高校生と交流

コロナ禍で人の移動や関わりが制限され、外国人観光客の姿が消えた街。国内有数の観光地である鎌倉市で通訳ボランティアを主たる活動にしていた鎌倉高等学校英語研究会を主宰する堀川晋太郎先生は、いまの状況でもなにかできないものだろうかと情報を収集している中で「教室から世界一周！」プロジェクトに出会いました。

「始動したばかりの英語研究会では、鎌倉に来る海外からの観光客にボランティアガイドをする活動を予定していました。でも、コロナの影響で観光客も来なくなってしまった。人がきてくれないならば、自分たちのほうからオンラインで世界の友達に会いに行こう！という思いで始めたのがこのプロジェクトです。海外の同世代と、毎月、時節にあったトピックや身近な話題について日本語と英語で話し合いながら、楽しく交流を図っています。2020年度はフランス5回、メキシコ5回、イスラエル1回。来年度以降もオンラインでの世界一周を目指し、アジアやアフリカとも繋がりたいと生徒たちと話しています。」(堀川晋太郎先生)

活動を通じた生徒の変化

活動を通じて英語研究会の生徒たちは、英語力の向上だけでなく、英語でコミュニケーションを図ることじたいに少しずつ自信をつけていて、活動に取り組む姿勢もより積極的になってきたそうです。「英語研究会のメンバーだけに、ことばに対する元々の潜在能力や高い関心はあった。でも、日常の中でなかなか話す機会がなかった。このプロジェクトでは毎回小グループでの話し合い(ブレイクアウトルームセッション)を入れ、その場の司会に指

【神奈川県立鎌倉高等学校】

名したり、あえてグループ内には他の日本人がいない体験をさせてみたり、そこでどうしても英語を使わなくてはいけない状況に追い込むような機会をつくる工夫をしています。日本の生徒が少しずつ力をつけ、それを受け入れる外国の子たちもだんだん状況に慣れ、リラックスした雰囲気での交流を図れるようにもなりました。設定するテーマを提案にくる子、自分を日本人ひとりのグループに入れてくれないかと相談にくる子もでてくるようになりました。セッションが始まると、運営に関わる指導者は基本的に場の状況を観察し、見守るスタンスに徹していること、活動の主旨が語学のレッスンに置き換わらないように、生徒たちが使う英語について正す指導は控えるようにもしています。」(堀川先生)

今後は、2年生すべてのクラスの英語科の授業にも導入予定

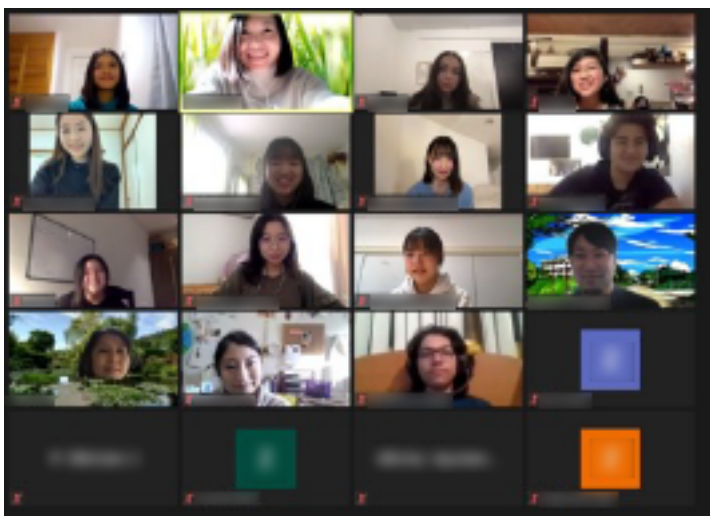
高2全クラス（1クラス40人）を対象に、1クラスあたり年間4回このプロジェクトに取り組む予定。通信環境の都合で、1回65分のセッションに入るのは20人。生徒は1年で2回別の国を訪問するようなイメージでこの体験ができるように計画しています。

実施までの準備

構想にかけた期間は1か月くらい。FacebookでWTOC 堂原さんの発信を見つけた→オンライン説明会に参加→堂原さんと具体的な相談→実施のイメージです。

まずは「スモールスタート」からの取り組みを

当初は、英語科の授業の一環として考えられていたこの取り組み。しかしながら、授業に入れるのであれば、プログラム構成をどうしていくのかを綿密に考えておく必要があり、いきなりの導入は難しいし、不安にも感じた堀川先生。鎌倉高等学校では海外の姉妹校とオンライン交流の経験を持っており、その時にもまず英語研究会の活動として小さく導入し、感触がある程度感じられてから授業に取り入れるやりかたをしたことがあったので、今回も同じように進めています。



メキシコの高校生との交流